

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100368		
法人名	株式会社 都紀		
事業所名	下古賀紀水苑		
所在地	佐賀県佐賀市東与賀町下古賀69-25		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 17 日	評価結果市町村受理日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 4年 12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中で、積極的な交流を避けながら月一回のバスハイクは継続し、季節を肌や目で感じてもらった。また、同一事業所との交流は今年も控えたが、各苑で夏祭りや敬老会を催し、12月は忘年会 & クリスマス会を実施予定である。自粛生活が続く中、イベントを実施する事で少しでもマンネリになりがちな日々の暮らしの中で笑顔を引き出し、楽しんで頂けたらと取り組んでいる。10月に同一法人で「家族会」を開催し、家族様同士、顔が見える繋がりを感じて頂いた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園の中の集落にあるホームで、窓の外には田畑の風景が広がり、心和む雰囲気が感じられる。風景を見て入居を決める方もいるとのこと。同法人のもう一つのホームもあり、感染症以前は交流も行われている。スタッフ、入居者の笑い声が聞こえ和やかな雰囲気の中で落ち着いた生活を送られている。地域の住宅も隣接しており、散歩時に畑仕事中の住民にあいさつすると野菜を頂いたり、地区消防団の協力も手厚く地域住民との関係も良好である。感染症流行以降、大人数が集まる行事等中止せざるを得ない状況であるが、密集地を避けてのドライブやホーム内部での行事など入居者が楽しく過ごせるよう、工夫して運営されている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付きやすいようフロア、玄関、事務所に理念を掲示、共有し、振り返りやすい環境を作っている。毎年4月のオリエンテーション時には再確認している。新人スタッフにも共有・実践に努めた。	理念はホーム内各所に掲示しいつも意識できるようにしている。スタッフの勤続年数が多いこともあり浸透している。新人スタッフにはオリエンテーションで話をし、他にも悩みで話を聞く際に理念を念頭に置いた話をするなど共有に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではあるが、日常的に朝の挨拶や散歩時の挨拶など交流できている。また、事業所横の畑の近隣住民より収穫野菜をよく頂いている。	地域住民とは散歩時に挨拶をしたり、野菜を頂いたりする良好な関係が築けている。回覧板も回してもらったり、地区の集まりにも参加させてもらうなど地域の一員として過ごせるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は、認知症カフェや運営推進会議等で理解や支援方法を伝え活かしていた。 またFAXで行方不明者の情報が流れてくると近隣を意識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ではあるが、運営推進会議の一環として夏祭りや家族会を行い実際を見ていただいたり、話し合いできた。11月は消防訓練を行い、消防団参加予定である。	感染症の流行状況によっては集まることができず書面のやり取りで代替開催した。可能な範囲で行事との同時開催で実施し、感染対策を行いながら、時には公民館で実施するなど工夫して開催されている。自治会からの参加が今後の課題となる。	自治会の不参加の理由等踏まえながら、参加声掛けの工夫などにより年数回からでも参加できるよう取り組まれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍以前は認知症カフェへよく参加していたが、今年も参加は見合わせた。地域包括支援センターや社会福祉協議会へは苑だよりを毎月郵送し、包括から運営推進会議に参加して頂いており、苑の取り組みや実状を知ってもらっており、協力関係にある。	相談事などはおたっしや本舗を中心に積極的に連携を取っている。スタッフ同士の関係も良好で入居の依頼、相談も受けるなど双方向のやり取りができ、関係良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアに取り組んでおり、勉強会にて毎年学び、ケアの振り返りなど行っている。身体的拘束適正化検討委員会も3か月に1回実施し、話し合いができています。	拘束や施錠は行っていない。拘束しないケアの考え方はスタッフに浸透しており、拘束以外での安全確保をいつも考えている。言葉に関しても普段から職員同士気を付けながら、声掛けしあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、外部のオンラインでのZOOM勉強会に参加している。日々のケアの中でスタッフ同士が注意しあい防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い学びあっている。成年後見制度の利用者や安心サポート利用者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族が少しでも不安なく納得して頂けるよう説明して、契約や改定をしてもらうよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話や情報提供書で要望などあれば聞かせてほしいと伝えており、家族会でアンケート調査報告し、意見箱の設置や第3者機関についてお知らせし、思いを表出してほしいと伝えている。また、結果に関しては報告し、反映するようにしている。	家族との関係は良好で、面会時など顔を合わせた際には、意見を言ってもらいやすいよう配慮しながらかかわっている。年一度はサービスに関するアンケートを実施し、ホーム便りでも意見を募るなどし運営に活かそうと努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話に加え、会議や各委員会での集まりなどで意見や提案を言ってもらい反映できるものは取り入れている。また、代表者との個別面談の機会を設けている。	月一度のケア会議では意見を募り、各スタッフは委員会に所属してもらい、立場ごとの意見を出してもらうなど、スタッフの思いを反映させるよう取り組まれている。代表者との面会も設定し、関係も良く意見の収集、反映が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務基準表を作成しており、やりがいをもって働けるよう職場環境や条件整備に努めてあり、コロナ陽性者が出た事で勤務回数に応じた危険手当や、物価高に対し手当を頂いた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設勉強会や法人外主催のZOOM勉強会で学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他苑との交流は控えているが、同事業所内では県内旅行へ出かけ交流している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様・ご家族から話を伺ったり、病院や入居される前の環境の情報を得、生活歴や趣味を参考にし安心に繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困り事、心配な事、分からない事などを伺い、ご理解頂けるよう説明し信頼してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事が解決、改善し望む生活に近づけるようなサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持っている能力を活かしてもらい、協力し役割・やりがいを持って頂ける関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気づきや変化の度にご家族へ報告し、お話を伺いながら一緒に本人様を支えられるよう相談できる関係性作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出などは難しくなっているが、距離を置いての面会や電話、写真同封した手紙、年賀状などを活用し関係が継続できるよう努めている。	家族の面会や、知人からの電話などあった際は、話がうまく通じるよう仲介をしながら関係維持に努めている。面会は窓越しなど感染防止も行いながら、手紙のやり取り、SNSの活用など工夫してやり取りを続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や能力にも目を向け、配置や会話の仲介をしながら協力し関りあえるよう、レクや作業機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了してもご家族が苑に挨拶に見えたり、収穫したお野菜を下さったり、コロナが収束すれば以前のようにカラオケボランティアに来て下さると言ってもらえている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの見直しには出来るだけご本人様、ご家族の希望を伺い、1年に1回ニーズアンケートを行い、生活歴をもとにしながらご意向に添えるよう検討している。	普段の会話から意向の把握をしたり、年一度のアンケートで思いの把握をしている。ケアマネージャーはゆっくりした時間をとり話を聞いている。本人がうまく表現できない場合は生活歴や家族の情報、これまでの本人の言動を基に希望を想像し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様からはもちろん、ご家族や前に利用されたサービス事業所からも情報を頂くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士でも情報を共有しながらその日の体調、心身状況に配慮しながらできる事、好きな事をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各々の課題に対し、スタッフから様々な情報を得て、アイデアを出し合い、医療・介護・介護用品事業者等の意見も頂きながらケアマネが作成している。	ケアマネージャーを中心に本人、家族、スタッフ、医療関係者など意見を出し合いプランを作成している。車いす納入時には介護用品業者などにも意見をうかがっている。ケアプランに関連付けて記録できるよう書式を工夫し、記録を今後活かすようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践・結果や状態変化など個別の経過記録や申し送りノート、申し送りでスタッフ全員で状態把握、共有しケア会議等で見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化するニーズに対しても専門職としての経験や知識・アイデアを持ち寄り本人様やご家族の希望に添えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心サポートを活用している方もおり、できる能力を発揮してもらいながら豊かな暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望に応じて、かかりつけ医を決めている。協力病院からは月に1回訪問診療があり、体調不良時には随時報告、往診して頂いている。協力歯科医もあり、安心して適切な医療支援を受けてもらっている。	希望があれば入居前のかかりつけ医を継続し、了承を得ればホームのかかりつけ医が往診を中心に、緊急時はいつでも対応できる体制を整えている。専門医などへの通院時は家族協力のもと通院し、できない場合ホームでも対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師とは細かく情報や気づきを共有。健康状態を把握し、協力医療機関や訪問看護師に報告・相談し医師の指示のもと適切な処置や受診ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院される場合は付き添い、医療機関に情報を与え、入院中、退院に向けカンファレンスを行ってもらい、情報交換や状態把握に努め早期退院や関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び年に一度家族会の中で説明と意向を確認している。かかりつけ医にも意向を伝え共有できている。また、病院主催でACP執り行われ、参加・情報共有できている。重度化や終末期には改めて意向確認、支援の方向性を話し合っている。	契約時に看取りや重度化に関する指針を基に話し合い、家族の希望を聞き対応を確認している。看取りまで行うが、勉強会、サポート体制の充実、対応手順の確認などでスタッフ、入居者、家族ともに安心して最後まで過ごせるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スムーズに応急処置や初期対応が出来るよう学んでいる。今年も救命救急講習中止した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・消防団の立会いの元、年に2回避難訓練行い地域との協力体制築けている。夜勤専従者の訓練も実施できている。また、災害時に備え職員全員に連絡が回るよう通報訓練も実施している。	火災時訓練には夜勤専門含む全職員が経験できており、消防団からもホーム見取り図を預からせてほしいと申し出があるなど、協力体制もできている。その他、水害時の避難経路確認や、災害時の備蓄も備え、対策ができています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄シーンでは入居者に合わせ、ジェスチャーや言葉かけ、声のボリュームなど自尊心やプライバシーに配慮した対応を心がけている。	排泄の誘導時には羞恥心に配慮し、周囲にわからないような対応をしている。認知症の方には特性を理解し、自尊心を損なわないような声を掛けをしている。個人情報については、鍵のあるキャビネット等で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けによる問いかけや何をしたいか言動で汲み取ったり、自己決定できるよう選択肢をあげたり、希望を表出しやすい雰囲気も大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調をみて、無理強いせず、その方のペースで生活して頂けるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の乱れや服の汚れなどこまめに気掛け身だしなみに配慮している。またイベント時には口紅を塗ったり衣装に着替え、いつもと違う雰囲気やおしゃれを楽しんでもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所からまな板の音や料理の匂いなどがして、話題にもなり食事が待ち遠しい時間とされている。下ごしらえや洗い物、食器拭きやテーブル拭きなど能力に合わせ作業、力を発揮してもらっている。	献立は前もって立てず、その日の材料や入居者の好みなど、食べたいものを聞きながら決めている。皮むき等の下準備や皿運びなどを一緒にしながら食事をしている。敬老の日、誕生日など特別な日は出前を取ったりして食の楽しさを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康、栄養、口腔状態などを考え提供している。摂取量が少ない場合はゼリーなど食べやすいもので捕食してもらったり、時間を置いたり。水分量が少ない場合は好みの飲み物や果物で補うように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	よくブラッシングしてもらったり、しっかりすすいでももらったり、仕上げ磨きを行ったりと能力や場面に応じて介助している。歯科よりメンテナンスを受けられている方もおり、口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解し、適切な時間に言葉かけしトイレへ案内している。落ち着いて排泄できるようプライバシーを守り、ゆっくりした時間を設け排泄介助している。	昼間のおむつ使用者はおらず、訴えが明確でない人に対しては、観察をし、動きがあればトイレに誘導するなどして自立を促している。介助も程度によって二人介助するなど、できるだけトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と十分な水分補給に努めている。必要時、ドクター指示のもと下剤使用しスムーズな排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や好みに合わせ支援している。入浴が困難な場合は部分浴等で入浴時と同様の清潔を保っている。	毎日入浴できる準備をし、各個人の体調や気持ちに寄り添いながら、可能な時にうまく誘導し入浴してもらっている。ゆずを入れたり、楽しみや季節を感じる工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて自室での休息を促している。また、安心して休んでいただくよう言葉かけを行っている。必要時はドクター指示のもと眠剤使用し安眠して頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効果、副作用を理解し、スタッフ同士でダブルチェックなどを行い適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせ、体操やレクの集団活動と家事や得意事、読書、歌唱など個別活動を取り入れ支援している。また楽しい気持ちになるよう言葉かけにも配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のバスハイク、苑付近の散歩にて季節を感じてもらおうよう支援している。コロナが落ち着けば、ご家族の協力を得て、幅広い外出支援が出来ると思う。	近所や敷地内の散歩は日常的に行っている。近くの馬小屋に出かけ、入居者にとって刺激にもなっている。季節ごとのバスハイクなどでは遠出もしている。冠婚葬祭など感染症の流行中は中止しているが、おさまれば送迎なども行うよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理で所持されている方もおられ、ヤクルト訪問時、スタッフ仲介し購入されている。また、パンやコーヒーの嗜好品をスタッフに購入依頼されたり、散歩時、自販機でジュースを買ったりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の対応時は本人様とお話をして頂いている。また、手紙が届いた際には返事を書いてもらったり、年賀状のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの景色やふりそそぐ太陽の暖かさ、外の空気の匂いなど、気持ちよく過ごせるようその日の気温・気候に応じて調整している。トイレ使用時のにおいや足音などにも配慮している。また置物や掲示物などで季節感を感じてもらえるよう対応している。	共用スペースは明るくゆったりとした雰囲気、手作りの装飾などもあり、居心地の良い場所となっている。窓から見える景色も冬場で気持ちが良い。温度管理も行い、特に冬場はヒートショックなど起こらないように注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングにいてもソファや椅子の向きを変える事で、ゆっくり一人で過ごせる空間を作ったり、同苑者同士で会話が持てたりと交流できる配置・空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを、と呼びかけ寝具やソファ、家具など持参をされている方もおられる。家族写真を掲示し居心地よく安心して過ごせるようにしている。	個室内は掃除、整頓が行き届いており、持ち込みの制限もないので、使い慣れた家具や道具を使用され生活しやすいようになっている。ベッドも本人の使いやすい位置に置き、希望にそって柔軟な対応がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方にとって分かりやすいようにと居室入り口名札を大きくしたり、トイレの張り紙を黒く塗り直したりした。歩行運動の妨げにならないよう手すりや廊下になるべく物を置かない様安全な環境に配慮している。		